

令和4年8月5日

学区制審議会 会長 様

瑞浪市教育委員会

教育長 山田 幸男

瑞浪市立小学校及び中学校の学校規模の確保のための学区見直しについて（諮問）

本市においては、平成20年度から平成21年度の2か年にわたり、市内中学校の学区制について、学区制審議会を設置し、検討をおこなう中で、中学校の適正規模をクラス替えのできる1学年2学級以上が望ましいとし、中学校の統合による中学校区の再編が答申されました。これに基づき、瑞浪市立中学校統合再編基本方針を策定し、瑞陵中学校、日吉中学校、釜戸中学校の3校の統合、稲津中学校、陶中学校の2校の統合により、市内の中学校を3校に再編しました。

しかし、統合実施後も少子化の流れは加速し、特に市内周辺地域においては、児童生徒数の減少が続いています。

中学校においては、統合後間もない瑞浪南中学校において、令和11年度よりクラス替えができない1学年単学級となることが見込まれており、1学年複数学級の維持という統合時の方針による適正規模の確保が困難な状況となっております。

また、小学校においては、令和7年度より、特に市内周辺地域に位置する陶小学校、釜戸小学校、日吉小学校の3校で、複式学級となる学年が見込まれています。

一方で、学校運営に係る地域の参画については、現在すべての学校でコミュニティ・スクールの導入を進めており、各学校に学校運営協議会を立ち上げ、地域住民が参画することにより、地域全体で児童生徒の学びや成長を支える体制づくりに取り組んでいます。また、地域学校協働活動推進員の配置により、地域と学校とが連携した様々な活動を行っており、今後、学校と地域のつながりはさらに強くなっていくと考えられます。

これらの状況から、今後、市内全域の小学校・中学校において、児童生徒の教育環境を確保していくとともに、地域住民の理解が得られる学校統合、学区の見直しについて、審議賜りたく諮問します。